

臨床福祉専門学校
言語聴覚療法学科 平成30年度 第二回教育課程編成委員会 議事録

日時：平成31年3月29日（金）13：00～14：30

場所：臨床福祉専門学校 3F会議室

出席委員及び所属

園田 尚美（株式会社 言語生活サポートセンター 代表取締役）

浜田 智哉（言語聴覚療法学科 学科長）

記録：樋口 豊朗（事務局 係長）

欠席：田村 満子（NPO法人 こども発達療育研究所理事長）

1. 報告事項

- ・2018年度の卒業生（国家試験状況）と新入生について
平成30年度卒業生は46名、国家試験の合格率は79%であった。
競合校の中でも、合格者数、受験者数共に上位を占めている結果となった。
- ・2019年度新入生に関しては、45名前後の入学が見込まれる。
カリキュラムに関しては、今後の変更はない為に今年度と同じ内容となる。

2. 過去の振り返りを含めた意見交換

- ・卒業生の就職先における成人・小児領域の割合
学生が入学する際は希望就職先としては50%くらいだが、実際は成人が80%以上
入学後の授業の中身や、就職先の募集が圧倒的に成人領域が多い関係。
成人領域の現場では言語聴覚士のが人手不足
- ・実習について
入学後早期の見学実習では、言語聴覚士の将来像をより理解する事が目的であるが、今後はより患者目線を持って欲しい。それは、2年次の臨床実習でもいえる事だが、教科書に載ってない言語聴覚士の仕事の在り方に直面した際にそれを拒絶ではなく理解する事が必要とされる。その為には、施設側も学生に実習の目的を明確化する事が必要とされる。
また、臨床実習で問題となるのが、指導者側と学生側の人間関係であるが、指導者（施設）側は患者を診る為の実習、反面学生側は単位を取る為の実習、いわば一つの試験のような感覚である事。学校側も実習前教育等で、より実習の目的について指導が必要と思われる。

3. 今後の臨床福祉専門学校の動向と教育課程編成委員会について

以前より状況報告をさせて頂いた通り、ST学科については、2019年度の入学生を最後に募集を停止した。専門職大学の開学と並行し、2022年3月に廃校となる本校にとっては、今後職業実践専門課程の認可を取り下げる予定である。よって、教育課程編成委員会も今回が最後となる。

以上